



岡原軍記大全卷之六

リ5
9727
1



門 45
號 9727
卷 1

國府京軍記大全卷之五



一 石田三成傳見口述入 并 七將序指
家康公涉扱之變

一 石田三成居堺佐和山 是秀康濟涉
送 并 福原垣見 德台 對 改 易 之 事

7

7

関ヶ原軍記大全卷之五

石田三成佈見口並入七將守指

家康公法扱し変

○石田三成如捕謀略一途く佈見口来りて

内府公法扱し其法漢代亂打果せん云云

若くは科官存く石田三成法扱し七將佈見口

三成法扱し其法也扱し其内府公法扱し其法

て和順し其扱石田三成法扱し其法也扱し其

下有との変法扱し其法也扱し其法也扱し其

通將監軍法扱し其法也扱し其法也扱し其

仍引之成依和山陽若一、お扱
て送り 依依作休来り

定康公作事知有

凡餘略はき道一、仍る成る時に化依を伺とい
り諸略汁、米の成り節只道死道依依
諸る成り、安依依ひて正たは人の智依依
正依時に天地の万依也、餘依軍法汁、小
正をたをを九、道年信負善徳の如く、
後の人是を入札中、て成札依れて新る每
目く人、是依入海、札してせり、成りて人
是依入海、は給か、て二年付、成りて小

手也一の只付せんと、正依、以人、成りて人
有る、内を人の真心成る人中、て善る、賄略
依、成りて、海、下、を、振也、法、成、也、と、
信、中、く、小、難、の、一、正、也、九、に、唯、每、朝、每、晩、
夜、妻、不、依、を、人、是、一、給、依、を、給、也、一、と、定
の、如、く、正、依、成、何、手、に、難、依、一、て、依、用、に、
物、至、た、た、一、換、合、り、毎、日、依、依、依、依、
て、以、依、依、人、也、一、已、依、依、依、依、人、の、智
依、依、依、依、依、依、人、是、一、元、メ、因、依、依、依、
て、仲、乃、喧、嘩、也、一、依、依、依、依、依、依、依、依、
て、仲、乃、喧、嘩、也、一、依、依、依、依、依、依、依、依、

棟梁を立せて北極をとりては強御を治め
彼の小屋場より居た原草のよりは
ては中無事と預け放彼草のを場示あり
て不慮成るは誤海魚——と云月よは
の紛れ解——と人は大勢押来りて彼草の
を泥の中へ穿入て衣腹向薄刀眼先目口
近と泥たらしけり。あうて道に若止千萬也
時よ彼洞窟人走り来り先は先見者
る也下前を流るお手よは成程なり

肘の寄る也先小屋屋に入る也——と云ぬれ

海に泥たらしけり。屋敷の海に斗ふ中
きと亦又悪者自身成る大死よ建物を
そ時通る用言志たるまなれば彼草の
定改付た原小裡好打立附刀眼先小柄木
近と九揃て行れ日後とつりと出——と私
益く心子を至たる是上中夜と出——と穢なる
不の澄小せんた——と大小と扱重——と事也
當分法種塞ふて先出——とらり彼草の
賄路にこれと思ひあれ是け時に焼し
く修り小物く海を成心入海是たりと礼の

八百と云て中徳心の心一収ひ是を志以小成
て毎朝く人は揃し時よ起り強く乳経を
巨ならを同人是を之を極究既附して
る百人の以漸之百人もてる小合服く調
して終ぬ、廣右の徳念一丸附たり、今様
を道節小仍る係変なれ、智係調極冷
変は非らるる石田之成今漸乎難変以
係志りて思案一以係、家康公道
係立下かり、極治らん変考走り込其上
心一色この智係係せらりて流石の新係林

京を非し面くと能た所程の思案の石田

怖安係略也

斯う云ふ長巳年四月二日石田法政の
忠敵一走り込た海苔の漸たるを夜の渡り
たり、此言法玄園をりて、舟係多柳系示し
面くと野面を毎系より、係中只を人走り来る
故者不富立原大重組目附立念をり、米系
依係書出で野面と、此言石田中多海、加敷地回福
島清野、高細川木七人統業、今今様、今様
中、之成係焼討、此魚、今今様、今今様、今今様

なく唯今 勿府公後年教令斗り後世扱^申致
也希方は難混中一をた原首と^申呼く由多^申り希
強の有法年^申のた^申根の^申変と^申由^申免^申有^申之^申備^申よ^申
女抱^申依^申年^申致^申と^申志^申月^申く^申と^申一^申中^申多^申原^申致^申生^申有
中^申也^申せ^申よ^申付^申有^申竹^申前^申白^申披^申重^申致^申一^申以^申原^申よ^申
勿府公^申惜^申く^申由^申思^申之^申由^申有^申之^申由^申作^申出^申以^申原^申一^申由^申坂^申不^申違^申手
来^申る^申変^申何^申原^申魚^申一^申小^申書^申院^申白^申通^申魚^申一^申子^申更^申一^申と^申
對^申面^申よ^申及^申魚^申一^申と^申由^申作^申出^申別^申由^申料^申理^申出^申三^申成^申を
体^申是^申を^申付^申そ^申は^申舟^申伴^申直^申諒^申柳^申原^申産^申路^申中^申多^申四^申信^申木
也^申と^申る^申は^申存^申の^申変^申小^申山^申柴^申ハ^申大^申接^申行^申の^申送^申誠^申也^申と^申也

家^申康^申公^申針^申果^申を^申魚^申く^申と^申中^申上^申る^申時^申よ^申 家^申康^申公
弟^申て^申由^申同^申心^申之^申由^申在^申年^申の時^申不^申投^申加^申けて^申人^申之^申致^申と^申云
変^申ハ^申毎^申半^申一^申由^申身^申入^申て^申出^申夫^申一^申由^申加^申ひ^申有^申変^申也^申是^申後
人^申之^申知^申れ^申る^申所^申也^申付^申そ^申は^申由^申作^申出^申以^申原^申一^申由^申坂^申不^申違^申手
知^申ら^申く^申 家^申康^申を^申致^申を^申世^申目^申した^申由^申也^申と^申今日^申
辨^申し^申て^申後^申来^申を^申世^申目^申し^申か^申成^申大^申送^申人^申也^申先^申件
を^申魚^申の^申変^申良^申將^申の^申ち^申ら^申と^申る^申知^申也^申と^申多^申考^申る^申由^申也^申對
面^申せ^申ん^申と^申由^申存^申の^申り^申之^申成^申候^申を^申知^申れ^申由^申急^申に^申成^申心^申地^申を^申
由^申て^申心^申安^申か^申候^申魚^申一^申 家^申康^申を^申致^申て^申中^申之^申成^申を^申同
の^申筆^申也^申由^申中^申一^申と^申傳^申和^申山^申の^申嫌^申之^申由^申知^申れ^申る^申由^申也^申の^申隨

一秀頼回好し居たり」と書附誰人ゆてと私の書云
を以計算する毎日の支申言ふに非ざる向く地味
不相心めて石田を如こい此之痛し体見の自分
を入中さるる魚——と云信長家時之威中ト云は清
かよお時之亦仕合よい自分之威申川取時大坂
公七將押詰中ゆて此其今の如く 田舎公時
屋敷之匂み居中一及と腹痛の思案成上ら
て也書さく宛て居たり 家康公の上云よや
と氣をいなり 家康公抱中と推言せは
清人かいらひて中安松有魚——と云信長と云

威書て取川せは只腹痛申す自分之威成 清は申
くゆ之痛は大後回者也仍る是派之小書院よ至
終て此地有物よを日そら大坂を異なり凡
次来て石田大坂よ移る騒障子のな成と云は
大坂公討手来ると立騒く富唱よ移るを海子
備よ二方の小兒の如く立上る此道習の若侍おか
——くあら腹痛し石田川来か心成りよ成
士と思ひた頼よ女よは芥た成と梅野侍
柳原におか——なから誠とい思ひたりき此よそ
夜小使よゆ書成よ成此書を終よ序成を連

流夏ふ叶しつ坊至る元成おれて手觸成信り人
中手代川出て行衛し言通し大腰抜け言ふ未
く舟舟柳系成始として園東し諸君を赤法寺中
たれし悔りてお石回し侍臆病也是正の悔
しを思ひしは彼加分際も何程し軍法調略
左麻達と大脱知事たる夏何し言をなると来く
此悔りしは是末の也是しつ之成に徳人の心成り
先大元し諸略を成れせと人し悔し悔く為し左
る夏也徳を心成り冷夏しめ也は時舟舟直法成
出ても石回し初め臆病も事し悔し女寺の末に記

叔父のしつとやとる 室原公麻一とせは石回を

此程に思ふ源きまとは思ひしりき物く余程軍中
有り冷夏心成りも是直法徳心も日中事也是利
言は諸略を成れし良将也平均し言新田義我
貞楠正成等捕殺しと一序し言久し言句し
言氏に臆病なりて軍糧くお語又高し是れ地
震し踏きつととて常力の有る形令く諸略を
の夏也義我貞年若なるは是れ人徳大なり悔り
るは何し用もは是れ人徳也是れ常く悔り其
後西之原下流の村退り延川に只是義我貞の

海原く船也果一てその氏大軍を信して大なる
勝利を得られたり又唐先ハ蜀シヨウの劉備を征
ハ懸て回れて新の如く勝るを得一人ハ心を得て
世終ハ勝利を得たり和漢曰ク一軍法也馬関
東ハ心を得て先をさせたなり一信を得て其の中心也
物ハ怖るるなり一威ハ恐るるなり一兵士といふ者
の若くは未だなり一海ハ一果一て翌年関ヶ原
合戦ハ大元を起一たる冬也之成也 新ら大
坂先ハ一軍甲斐守長政が敵肥後守法正細川越
中守忠興此四ハ一輝臨陣死す其後長政が敵

たる物嘉明福多た馬を渡河し木付七人ハ向て待定
一ハ原ハ石田三成信長之迎はり 徳川敵軍は戦ひ
及ひいして追ふに果す一と信長は急一
手勢を得一其方余騎隊ハ信長之押詰て
家康公之七將ハ向て分使を以て中とる之成支左
衛門守信行信長之終云信長之を上とる以て従軍
ハ頭人ハ一と部丸を仍るに方討果んとす
信長ハ一と果すは是也一信長ハ一と中と
る也 内府公の法廷者ハ左衛門守末吉也
一ハ和之の者ハ和之角也向て一初年ハ美濃

幕中へて石田侯討んとすの用への非利候也石田
は其の隨ふにて秀頼の長也刑罰有らば
氣を二受の上た候處に支せいかも也 家康侯
頼朝より此のいふ捨難く追ふ扱ひ申一宗光軍
兵衛門元九郎と云作れりけし七人し而も先程
了と云ひ立た候支候 徳川殿へ此扱ひ有は連を
候手候もなすべく此中支障急千方也と雖
是も其新也其時此處候時 勿論公法様
極撥して此作出候以上先此也之候也
家康侯頼朝來ると成候之下と云く此後中候

なり難く先進討果を候くは名七將之向く
家康侯之遺恨之し此其之成と所也て一發之
波と手強く候れりけし追首も仍も七人し而も先
程より及仕合也 徳川殿へ對し合致を候家
頼朝より以上憎く是等侯連け中此其何分
也此家の中宗光侯之座て石田侯の秘使の
是等難く此連向く大坂の向りけし其
家康公之成候作入に此度一軍お止たり此其
手勢大坂へ居合たり其其侯自身之呼れ自分
候其川後り合致も其家入在り此其川此其

家康加奉徳し為く威知也今扱ひて此迄き
た原時、少敷向なりむ又之威強加ひ切年し
秀頼之原、貞徳し舟の利也と作れ、向く宛
し威し年又 家康公、格別し管治也別
に扱ふ成り、わたり斯る 家康公、中村武祐
如捕生、約難示以存以て七人の向く、は作入原、
名存勢と有、夏なれ古、角朝敵し、此迄、
吟味、依違け、平也、之威、夏、右、向し、回、長、なれ、
今、討、果、ん、じ、と、本、意、小、振、ら、る、此、上、五、奉、行、し、
役、成、辞、し、く、五、攝、徳、和、山、一、獲、三、振、何、ら、志、免、攝、子

在、人、正、左、右、坂、何、ら、志、免、役、目、存、見、お、ひ、今、格、し、裁、判
家、康、扱、ひ、中、也、扱、て、秘、使、し、之、威、強、有、存、を、作、入、仍、
七、人、之、向、く、及、是、難 徳、川、殿、扱、ひ、の、上、角、也
之、仕、逆、法、り、り、物、又、各、人、存、以、て、治、功、如、捕、之、作、入、以
成、ひ、け、及、右、向、之、威、在、右、坂、也、之、威、強、り、之、内、は、存、り、
若、下、之、強、勁、之、止、時、秀、頼、し、此、乃、也、け、言、之、威、強、徳、
に、隠、居、之、有、也、息、在、人、正、夏 家、康、指、南、し、家
智、し、是、し、日、未、時、言、存、又、各、在、右、坂、之、言、之、有、也、果
く、徳、和、山、(隠、居、し、治、之、と、の、夏、也、之、威、也、冬、夏、き、之、
な、れ、い、と、し、治、徳、中、し、く、中、迄、言、中、し、く、治、意、
音

後道に懸難く在りしと信じて上彼是と申す故に
たゞ押返すべし 家康公の作し成程石田を別
る石田に送云々一石の支たれは先づ先づ
秀頼為也 家康加中旨申す加せむらへ信和
此隠居有る魚一と信作入時し秀頼等均き云
此後朝廷し信送言中し少くは進啓し上秋中
細云景勝傳行石原を東義宣并 小西掃部守平
隊固懐書之由申す細云秀頼等初め
と一々之威加日入魂し信和信作見し一居合石原面
く又在石原に申すは夜陰し思へて石田か完お集

評定志し上秋景勝の書石田と申すは合新
事は 内府公と申和し相傳有し仍る和角以
度、 徳川殿出扱ひの旨し信子申す信和山下
斗り又景勝書い書す玉件て信和乞ふと十日
斗りし内申し玉件て下取也日申す先此し上取
まらき也其時討手い誰彼と云は 徳川殿案向
右軍兵に信入すたりと云ふし信和して徳和山
公孫兵揚秀頼傳の法利候以て西より右と
徳和し合せ國東之討て下り信和も其時申す國東
方先後の款し授けて藏亡生魚也相略益

と云ふ山城守加中守也仍る所く依和山門前ら原
魚釣し此言有魚一と云時よ島地近將監也此
中は快多く此乃先主人唯と依和山の難事此の力
とならば五奉行役の智恵也也凡持在在島時
たとい加減良將成其志海たりと説人下知し應
ましきりて此只く在島成り何と云和懐の節道
有程中系徳川殿の忠信者よと云魚也と中先
廣吉し利もて又善也と持在在島成り何と云
徳知也とい時中依行善宣常はしりく在
志願也 徳川殿成謀らむ変叶すも也棄

此中玉水之体是中下流也石田殿上方先謀
依上流なる所系上根と心依合随分調略し
徳川殿の初年進りし徳之何程と其有魚一と上
根依行し善將常成之成を同心しして聖朝家
人古語古依を以法信中と云 内府公の忠告
之腹示す取の取扱ひの趣持の善意也と中と云り
石田之成居陣徳和山之善是善原清徳道り
善福系垣見能善對善政易しと云
石田之成徳和山隠居し極善善信信者た近其言
條原とい在不用た近加軍令を善也此在元と云

無いよ〜お極る是非〜及極る上六依和し是極
呼為軍備西渡〜川邊迄進〜志を以用を
け言 家康公市中知有て送りお結城申納云
康歸并中村式部中備生約新永以承を石田依
和山入城〜秘斗極せら〜け言体見よ
於て福系たると仰垣ん和向水等極後内院と仰
木目附役し名古見負備煩の変對安よ及云
て流分よお極り政易せら極新ら
家康公体見し城入居也

一 是書も曰良為ハ樹を〜んて何良士六主成

一 撰て結おは語のやく凡人た原志の極東に極
道也賜た道いら名をたて西玉〜華お人とな
在智謀ハ千人〜勝九本常ハ千人〜志を以
華お人〜一極〜言名とな〜志を以
ハ和角を仕たる石田が少〜良將遊を以好〜
義士良士ハ櫻り〜主人〜結お意向は和角
考て良將〜結お魚也隨分主人依極魚
也也名も是也良名ハ樹を〜んて何と云は風
風ハ松も也松も也流を唯桐の志を以〜
合家取〜流〜虫〜と桐れら〜風風の何

一からいふべきを定めて舟の本水に宿を目標
てい嘗い梅也を行ふと林也と宿れた嘗の旨
とす麻不い必梅也故も古語よ志中の嘗言
てて拙としく香をくとかくか程嘗を
唱る也と教くゆめてさする声か梅
芸の内の声い香んをく一ゆひして入る派
をくあや文儒よ里水仁道吉と比と
云り人のそ位知我中よ考く位魚也目
くも吾我んたらつと心管心よ能く共
人よい喜あ不存一ちるゆ水魚一也小也

新況の人言もあてあつたを為た進眼
くらり運命の初我知らずして石田は延
たるととを振元我のく又を振仕合也

柳公著の進將監勝修と名余い西玉對するの玉生れの人也リ量
い方人小勝れたる大日也又去日い元祖也林水太
人ゆて昔力い平よ蕪菅依我て飛りい内依我る福の各
人也左方折也上中もその也い西玉稀也若年い時武藏云
我好んで古事い軍学よ在事ゆけい成こときの馬小
成今小池を誇た進一皮世小秀ん其也右圖秀刻い凡
下よ遊世自士我は出仍らと成く西玉か右飯光り
て左圖い法常依何いりるよ考あ肘石田いおん二い三
い隨成い仍るけ人おんて右回か方よたより法常依何

原野目し下成る法師た糸を更か原安く出成り
岐の青紙揚て押信は休ん申る事く小湊に生魚
在也獲方し煙の中く糸加糖汁に生魚
て小路くを立切百錢たかた雨りた飯詰い進落
く討北糸先手を仕り豊後橋を去連く小湊の
徳川殿し館討入魚。石田殿し七十余人を三
五示 徳川殿に勝負決。流く糸の更あれ
い流石し 徳川殿に大きき。強初古魚。一糸巨
の御内小 徳川殿に百人。勝九たる智徳徳
成る功者なれ。定めら騒き小紛れ子く。門九海。

六方大和路し方選小魚。一山嶽し方いつれ路
山科小かりて選んじ知れをけ方。一蒲生海津
を先手と。一石田殿し館討入魚。一糸巨
小幡徳。一藤治んじ知れ此方。一大山伯老川。一徳多
先手と。一糸巨。一石田殿し方。一糸巨。一徳多
おは徳多を中。一糸巨。一石田殿し方。一糸巨。一徳多
はわぬ。一糸巨。一石田殿し方。一糸巨。一徳多
一成りて。一糸巨。一石田殿し方。一糸巨。一徳多
止あおの。一糸巨。一石田殿し方。一糸巨。一徳多
一。一糸巨。一石田殿し方。一糸巨。一徳多

也たなりくは再ひそ持事九年難加海魚
その録云はと冬しき中夏也其時蕭生海中
とけ候を也と同意して天晴荒れ夏在也

け蕭生と傳平い蓋傳し大乃士也軍功も有也元永
い橋山在也と名系りて伊達政宗の家人も園東新
の録も事常を取し一は後蕭生と傳平と小位て去
常し有信と事常を取し一は後蕭生と傳平と小位て去
秀行の代小指の事小藏おし一は野別守の事小指
傳平時信人一は兵部を治部卿傳平を武常を取
て是源小字家長小なる人夏候別事常を取し
て家老と一は島田道と一は役也仍る之成加為を常
夏又源常也

付言傳と同録云は仍る石田忠成傳平成程向く亦好し利
是も常出り我在依行義宣夏八年久志以先也
同日末今小お給らるは傳平成程向く亦好し利
傳平しとお扱めたる上今又夏候とるいふは尾
中常守とらるは依小お肖く也又其心慮也死後
夏也け上今一應い傳也通解お後れ夏也有又候
別い伝酒也系らせんと申送源成傳平義宣を始
と一は伝部卿加与力し向く石田加完にお集り
相石田之成新也傳平義宣を教する夏其子細
なる小指らるは義宣の傳平傳平を夏其子細

官少く其名義廣く山城忠治昂しく合衆小して
右系を更張照し孫也新羅之昂義光が叔代お
續しと血縁の家言く當時水戸に指す方石原
しと勢ひ又法也此等重く織田信長に謀中
しと軍功有り隠居し家督を以孫の義重に
譲りて義重從五位の下小任し正徳八年小從
五位の下小任し侍從に成り秀吉小任て又軍功
有り旧儀を治めて謀る人也又尋常にも人
家承旨小供に梅津之林に向く有て保護のをも
是也指す小成力に信將石回方小來り海軍の

暇乞い少く先系中合めく徳行也を内如事あり
て上取と必心儀合せ謀を揚め事也石回先を止め
徳和山に難産居しと時その侍給くと尋常殿之成也今
更徳加謀云の支を中出を序無事と指たるは南國
東しは運目如支也時小た迫又諫云しは徳今
目既し目と西し加たむし今也一延川首しから
まると云れれは評定指し是也徳和山に海軍し上
武備を正しと威を強り徳人の深く見事
かく小長と又徳川殿しは心也頼もなら
た其跡をけ度七人し向くの心入と知れ難し徳和

山が道の長士呼ひて備を^てて敗陳之徳と云此
義を也^也 建徳小徳和山^にけり^り 一^一 侯中^中を^をて大場^大に
依^依野^野越^越中^中奔^奔只^只原^原流^流山^山一^一 陳^陳一^一 日^日り^り 備^備生^生
備^備中^中小^小川^川平^平島^島の^の末^末に^に子^子余^余人^人を^を斃^斃ぬ^ぬ山^山料^料小^小陳^陳
を^を斃^斃る^るけ^け手^手苦^苦お^お洞^洞か^かて^て石^石回^回方^方が^が使^使意^意依^依依^依の^の
後^後目^目出^出立^立依^依和^和山^山下^下向^向て^て紅^紅旨^旨中^中と^とる^る内^内府^府公^公依^依依^依の^の
有^有て^てけ^け旨^旨の^の世^世局^局を^を相^相強^強か^か折^折也^也石^石回^回を^を送^送り^り市^市
建^建徳^徳賢^賢自^自息^息徳^徳城^城宰^宰相^相秀^秀之^之康^康濟^濟を^を石^石回^回以^以て
依^依依^依の^の依^依依^依中^中村^村或^或於^於備^備生^生約^約雅^雅示^示以^以て^て同^同律^律也^也
又^又子^子し^し軍^軍兵^兵依^依依^依一^一年^年一^一く^く石^石回^回を^を送^送原^原由^由也^也

百^百ヶ^ヶ度^度西^西國^國大^大石^石小^小之^之城^城を^を討^討せ^せた^たる^る時^時ハ 家^家康^康云^云
加^加茂^茂廣^廣也^也加^加源^源魚^魚一^一と^との^の上^上之^之也^也刺^刺ら^らる^る者^者依^依り^りん^んを^を違^違
石^石回^回と^と同^同律^律一^一打^打る^る之^之法^法不^不知^知よ^よ斃^斃ぬ^ぬ者^者を^を以^以て^て人^人を^を以^以て^て
意^意疑^疑り^りな^なれ^れを^を結^結讎^讎也^也并^并中^中村^村生^生約^約未^未る^る依^依依^依の^の法^法也^也
時^時不^不備^備也^也建^建徳^徳示^示り^り中^中一^一く^く相^相見^見志^志た^た康^康或^或依^依振^振り^り云^云
時^時直^直の^の信^信初^初加^加備^備也^也初^初一^一ん^ん信^信也^也初^初一^一ん^ん信^信也^也初^初一^一ん^ん信^信也^也
は^は石^石回^回加^加家^家人^人在^在也^也建^建徳^徳の^の末^末に^に子^子余^余人^人を^を斃^斃ぬ^ぬ山^山料^料小^小陳^陳
を^を斃^斃る^るけ^け手^手苦^苦お^お洞^洞か^かて^て石^石回^回方^方が^が使^使意^意依^依依^依の^の
後^後目^目出^出立^立依^依和^和山^山下^下向^向て^て紅^紅旨^旨中^中と^とる^る内^内府^府公^公依^依依^依の^の
有^有て^てけ^け旨^旨の^の世^世局^局を^を相^相強^強か^か折^折也^也石^石回^回を^を送^送り^り市^市
建^建徳^徳賢^賢自^自息^息徳^徳城^城宰^宰相^相秀^秀之^之康^康濟^濟を^を石^石回^回以^以て
依^依依^依の^の依^依依^依中^中村^村或^或於^於備^備生^生約^約雅^雅示^示以^以て^て同^同律^律也^也
又^又子^子し^し軍^軍兵^兵依^依依^依一^一年^年一^一く^く石^石回^回を^を送^送原^原由^由也^也

近道流魚也也向く此道通り父の府をいけ度為
度石田新道より一層くゆきとの変也平生此心書
て律義なれにかりそめん小に上名候者此難事
変也若し候しゆりならむ小に決定此却當有魚
一其時に我を奪ひて究又奪の終有進湯て此同
心也 家康公の此伺を幸ん一終は此言又石田
を膳所の女中として小座一何御あり今此海り
年程此道く追ひのち来り佐和山に程進一
と中取中村生約保先たり 母府公の此前
秋に此後貞之中上御進程く中と此所を送りし

只此は海りなり

け若石田加光派小海と中の心大軍使和山同道す此海り
池をく賭度度也幸事との下心なり又後據ぬ此心は
今天下混乱の時此言くじまれを 母府公の命候
肯く人有り父子しるめて此を命候幸ん此海り
け意味し法く此作一なり相は秀康派い此言
仍右御小して幸事候し此大將也 家康公に陸三
男と信康派の此中將軍 秀康公に此命也此
小信家知行し居り此言く子細い 東照宮未だ此
を言ふ此言の時此湯度候し事女し此手なり此り
海り一して此言此村し此下く一は此言此言
人此懐胎す此と此時小此言此言此言此言
願候し此子持たりと云此言此言此言此言
有一加光此言此言此言此言

關ヶ原軍記大全卷之六

一 内府公佈見城に 入陣重陽し加害候と云

一 定加藤公右坂に陣を 設け并軍を討法進交

一 加加多陳の所居并 和隆橋山山城等知常交

関ヶ原軍記大全卷之六

因府公体見之嫌入流为重瑞之加号候

家康云大坂之嫌(流唐并官)討(水)道(之)变

高之成(佐和山)逼(塞)去(日)後(目)附(彼)遠(御)既(討)

柴(小)乃(小)村(福)原(垣)見(德)吉(木)瀬(分)小(打)極(了)以(取)

之(政)易(追)跡(也)仍(与)之(人)佐(和)山(之)来(り)之(成)小(待)司

半(第)之(成)加(評)定(之)打(手)以(福)原(垣)之(物)垣(見)和(原)也(曾)

德(吉)因(就)之(物)亦(也)新(与)九(月)九(日)午(重)瑞(加)候(為)

因(府)公(大)坂(之)嫌(流)唐(并)官(侍)人(在)幕(合)官(之)討

之(評)定(打)極(了)以(後)因(府)公(之)告(評)定(候)有

関ヶ原軍記大全卷之六

外

此といふ者も此類に属す所也

云書小舟小楫なる時は流木の如く先は楫
り小舟を楫かひて道を走らせ也舟楫重宝
成るおほく水上小舟に能くおぼせし上じ
無道具成といふ楫道り之時に江より舟長
前後小道なき都て波小たて舟に偏不
深本也曰希也たふはる小舟平小舟果
たき時に只物の舟の死て極と成加加
中の役人私に舟を走らせ企人候流云
してそを操りて時可成といふ扱ひに候也

なり時に舟に前後に流す所なり
変りては候好流云の操り人必き余て
い遊中を以人候時に必き藏之生流い候
舟の只より也——福系なる物に石面加妹
解也然るが内流物垣見和舟也といふ成り方
人也流物を楫い五奉行に隨ふといふ也
たれ、彼目附候之人をいふ心候合程に私に
操りて流物を流す用也此小舟成り候候
山難云者も流すといふ楫に舟の如く七將の
向く一葉といふ外目附役部人候おぼし

又小及小元未接好友昂時小水命小打
りりり

斯ら石田位初捕之成徳和山隠居在座故之法村
人追去く上六休見ら故し每新先ハ波風見たり
りりり七將之面く已おぼり 内府公ハ盛徳
備し日月之如也安小福東なるし物垣ハ和宗也
徳宗ハ内府物未ハ人心を合せて新徳を疎之時
小右衛門之儀前位進せし目附役の儀有元好
七將之面く似く申立水札の目付役一方ハ先利
仔細方竹中自公等ハ一道理順也仍七將之

向くとつ小成りて騒動小及過り仍り
内府公ハ裁許申儀札の役人ハ中老職ハ如
刑部中捕者隆徳野澤西如郷去路中村或後捕
士或は成り小増回右衛門尉長盛長常右衛門
西京小前田徳善院云ハ其外後役人初事列在
一方ハ福東方之人一方ハ先利竹中與人立毎らひ
新徳軍の位を或ハ私事後傳石田加好也此等切有
人由て已納りを以押之贈贈の人ハ能云ハ一左衛
在中採めた儀義紛らなく前ハ石田を方人
其儀を依今ハ分叶備し揖手船の如く也其

一云の下小福東方水分よりおぼろる也 内府公
作也謙より水道よりして土法後肖く天下混丸
之招元也心来し見えしめのた先路易有無
との法同者有り信之強固長米裁利もして之
人古水の上段地昂時小流増し方と行して佛見
分たしく小浪人志りし福系右より物ハ古金を極た
と垣りん懸る同律也徳和山へ来りて之成よは
有後徳原之成中てたはふ 内府公成恨其り
て来懐まは言石田之成旬りし流ハ當時
酒川殿も亦小し之成ハ一帯是景也水せら流

夏のは懐き中も也過福系所より仲ハ徳和山も
之て所の中をとおひし流ハ以後石田か徳合は手
ハ福系右より物也仍る石田た道か中も有後用之流
夏古也是偏より運の傾く所也斯る 内府公ハ
佛見の向流ハ此流形より流せして此成光るも
盛んもして徳人皆く此神の下より立ん夏成
形も石田徳和山へ臨看し上ハ誰人 内府公成見
揮也人無敵し此回之成輝か友肥後与信子流
野た系も夏長福もた馬も夏正別馬回甲也
長子細川越中も右奥か友たるも所嘉納并坐

約、雅承以中村式部卿增回を爲す尉長米を花を博を
 弁和程之徳作最貴服故初月朽木系極なる
 運了て當時 徳川殿天下に此後見とて
 成此博也此身は世上風流に大方なる
 見の所を博は後有りて程と進中
 何府公也也暫時此博退有と云古又ん
 取有也也也此博進けと云向くの
 家系加在事の採の利小此博進
 法也則定ある前回云也此博附し
 糧並年具小當博之修有し加の
 不くも

至掃除して退れりり
 新也 世法よ云
 備小 東照宮に
 宰相利長に在る
 名河海に在る
 て万葉唱ふ
 り) 辛高し
 何府公は作
 是也仍る

作也され也此後此後人例分ち辨りて其利を此
之也九月六日大坂小入所有之敵軍之亮加三海
く完止宿一法家時一六日一夜増回を府内
より来りて中より一来る九月向く此れ相伝す所
ゆて條一殿中一ありて官討一ありて来る九月
仕度一お客係討手一あり大野修理重吉方勘當
商人係右一刃士一ありお律お若侍お執人を用意
一変は此法家所有無から其とも也其子細根元
一男ら多取少其加努宰相利長之公のく其令
差越右一細略のり一風波此小尾角守官討

く此法家の定仕小を用意未終一ありて内意中一あり
内府公の心入一殿梅是中一との此是善也其翌日小
ありて長常大就左傳也来りて右一殿お遠取
き一あり一此法同意中一あり其後京極丹後守言次
の也九月一此光輝一此延川一此と内意有り必定
官討一此法一お客係係一あり一内府公一此法
一和漢一あり其係此名將少一あり一此法一此一
あり一九月此光輝一お客する新ら八月一此係付る一
誰一此法一今格一此一此延九月一此此光
此也此目此法一此一此一此係此此係此係此

少く未律成と云作跡小并伴如多拂束あふ平亦
前後た右と有て申く親面からた新ら出封面し
此次返面く伺云は公言古方却是清大野修理あ
人并執指人し刀士古言投立候れて玉た成記候
是々用意ハ各交れ在候候し面く小ハ武官双
人あふを仍ら出合とのに有く望く扱ふ子くは治
事と云古言てあは時言と云一一人合古金也
今中一一人合古海内小秀頼清上候し古小お
治事時小 内府公法礼は作上と尋時小左候と
生立言あ有て行桐市心小是令秀頼清抱給入

おくと云り之は感一治事言并左圖は存令小就ては
治事是之有建極と云く治事 守家康よ何かり
種く是難候道九或は言封行んとの法極知その
倭行し古言く古言小成りや水門毎条回すはと
此處迄進項し治事右并後後人七組し面く小是
望く古言出て治事交極くは言古言小是
修理古方却是清執人し古言古言と云出れと云思
以古右切し秀頼清を抱看治事ハ後海方計り
少て時言候伺ひ古言と云く少て樂て
清言士から古言ハ是ならむは時内小當日は祝式又

昨日見ふ小治年八二——此退去の時小治を束くして、
孫之邦新説有て秀程歸ふは病余或は意味を
此遊をたると跡方無説と有りは成りて之を家
長小也心元無なる又園東近たのや——昔小治は今日
跡を得せ——此派乃なるい、空承康抱中さるいさく
遊を信小治抱有て此書院書院の仔細由多様原
亦く是を秀程承承——て安堵仕遊は向く此例
よ川付られは玄園近治抱有てカ如僕近也無く
見え斗と彼向くの立舞ひた派時行相市いよ
此房有て秀程歸ふ真原く入流ふと弟時よ

此下城也此信し向く弟後起若小お舞ひこ——此小考
在殿中存何変は退去也城也小て、業切は派
と云は秀程歸ふ過ち向らむは変は思事をして
く振たり、實々と思候し此事又和漢よと又と
有中あり、此は右將也城也小て、只攻の森新ら
因府公法海領有ては作出候、体見の城よ、
結構宰相秀康歸ふ千、軍兵小ては道守は
作付を非し信士、孫らむは城かけ来る為有
此下知候の支少く急也け故、向く一談強、此本
る極よ是將大將口人組、若人、大番組、若組、

和道習和程之徳候不残かけ来り仍ち及合八年
余人九月十日に入取近小お揺たり付時
内府公多一石田加屋敷より居たり一嫡子住人
正并左以有人方之在作入之三成夏今程之在徳和
山也和徳上之小勢方也別ち入用也也なれたる浦
暫く之也 家康信用中成之在作入り之
左連忠正万なれたら之と云夏也也難に放其家
との返言放揺ら之進来り一徳士中をら之入
来りたふり之案後一徳道り之品之行付半な
ら之を在年々之云根小目之成加用意一和道

不残不測の由とく之を在作入り之
家康不残に掛り之是偏之由縁略也石田之成
丈大なるを接之身之徳和山之有るから縁略
也之は屋敷在縁縁の由之と定免徳之付屋敷の
出原半在知り流して波風もたなく也形之云云小丸之
流ひり之成徳和山也之付屋敷之入之り之
懐りり之新ら 内府公之翌日徳役人并殿中
徳之在作入之右同他界之と後之下暫く之天下
加らす之上加列和家死在石田之成縁略之付
風況ふく有と云在 家康之徳使也之秀親を

補休字を控へたる九日光城せし御し殿甲しを言
付の御座を野去方某人討手とてお定まされい加威
密着し仍る也 守水康何し誤ら有之唯委難
し為せけ度し逆徒子細有るをのしし礼の
有りしし中村町於中捕徒永治中某人依りて依
入仍る先利浮き増回共未し此處言中とて我ら者
ら多中旨中とて小神文を以て中実唯此新
加列率お利長親謀の企有と在國中とて用意
少く倍し謀略とて討手は野修理申去方勤
是活少しは捕し去方お利長に長中せかたし以て

疑なき変りし逆事あり 逆之しと世成れりしと
也府公お加列利長し逆意謀なる原在也るせん言付
し某人を疑なきなりし去方勤是場は徳光國を野
修理申下野國は流刑に依りて時風となり
誤りししとて根元は石田加謀略小有変也増回長
未某人今 也府公の用意は中と依りて小しん也
縁とし是内心は石田と合解し一変は縁原今加列
の逆縁跡かたなきとし是を申し増回を野長
未を就左捕加列は 也言は中も原は是時法城の捕
捕し御破格のしし國持しは役目小しは質亦

なんを評定ありし事一 内府公の思召とお直敷大
下へ評判小は父利家御小は若り治事なんの義
早考え知るゝお直敷くは中身の徳正後替小成
他のはより有まると 徳川殿よとれたの徳心入也と
行儀の若謀儀御事は度家討しは治と利長
若者知り治事のは是は皆を根元は右の成小成
そより治長古の御略は徳派也をを富小
思召 内府公よとは疑ひしは程子也新ら
内府公御見の御法有しそは行相市とた小梅
新和角 内府公大坂後新治の侍んもは治

況中よりゆへに静ならしは是流は左大坂へ
徳也利家死去西の死しは殿は入法有し秀頼御
御補儀一治ひか一是流は是後新中にい子細
有変也

家康公大坂小治事有時小は下を多く秀頼御し
は為也亦西の死しは是有は合しく人質の心めて奉
安御は家康公よと行相市は新変也

加賀陣の治事 和懸指山山城も徳派御事
新ら 内府公大坂西の死小は後り一は下へ徳者各平
徳は徳派先より又は下へ下へ新ら 小治儀有て加賀

宰相利長逆心し企圖すやと云ふ

字康公は伴出原の年加列の由出陳進討て有との
支也付殿と和嶺とと今以公接山に陣を築て
謀き有兵中起ては和嶺 秀忠公は信姫君が列
入嶽の時と使和山に於て石田治部守備之威嶽首を
出ら合戦し用意ありや仍る和嶺中務方守備忠勝
持使とと使和山に赴くの時小之成徳略一流
石く忠勝なれを殺して大坂小海り石田逆心は
中と云 内府公法石田殿と思ふなり

云書小田原人といふは原村の十里を去る一と云

け語は兵庫原村といふかのふるもて也を云ふ原
の心也たといふ原人の只一人は如何程遠に別
て也と見時い偏り十里を隔るを小田原
河原といふ別れは松浦西海の松浦海陸を隔
てを云一又遠を五町七町何程遠を新也と
ふり時名千里のを云ふ小田原一程を云ふら小
を云ふと隔る一程を云ふ半中の付合程は遠
来也と云ふ石田合戦の十里のを云ふは隔る
也同一程を云ふ一切の支を見時一期の也
云 況や志いらく隔る原と云て也と云ふ

石和と成る
石和と成る

古奇小

彼いふに種はうーと徳と也ー
障障中ををにかりり

何程も是斯の中一唯く人の生合も是也
法中小解と障る変者は昂時と對面小友
乙次やと云云何と和吹生原時又元の時
は時必障法ならはあ方一様くの變有て
徳と徳味方のやく石通の根元と成る是

笑偏一に更也倭人行人をもるふの心
身企源時の思源魚や半や既小如列利去送
心な元の以小世上の雜況是新家長横山
山脚やまわして法目見一して生並候小細
法中とる仍る石和様也障時の送元と成る也
斯る 内府公大坂し脚西の地入法て有未お免る境
田舎の厨長米大荒れ大捕五人云守を建進らせ
そ非は殿の善徳亦い前四右細云利は能滞位是
跡は遺地一して目時出東之強新加け新(以後)
有は御見ふは家入亦大難事有りて法用心也有

又行概市心内之屋敷に如く秀頼公小也此意
也亦事のそ非信後人亦也常し出仕して此攝
攝事共伺ふ仍ち大小となりて忠しく 内府公の法
本初由之盛威光中清く秀て清くは言加此利
長い事と小在く父利家い久く在左坂也勤仕
取令信し城並之徳也なり大破不及魚り亦増回
長米商人加中旨信謙と思へ何し保原知也なり
候くと城の造作始り樽塚石垣の候も後城後
小左衛門人足掛て彦吉也善信は故小左内之振
部系昌也中平之今國し是是故年目見之し此家

智始め加たし忠しく在加列して毎日々光輝し没
聖亦い治男之男候出でて加たし殺殺部系常
なり林小父利家歸の時分福分中して是是保原
なり一増回長米など中懸しつて之今年左國の由候
也仍ち公養下し人口由をりて何程加列し城並
信い逆心也とそ風説殺殺大坂中先也此又
聽れ之げは信脱し利長穂條の企程成りし
増南東府長米右親左備安國守小口信掃て
内府公の中より又世との風説候り也是計り申い
内府公中より信守實也有変たらし此是常方大坂城

の殿中^い中^い軍討し企令く利家し為と風波おる
かた^いく^い以何何らむと忠思惟^い及是所加列^い玉
を^い其^い中^い一^い陣^い心^いを^い後^い人^いを^いる^いよ^いて^い細^い略^いを^い原
其^い也^い仍^いる^い 因^い府^い公^いを^い作^い出^い原^いに^い在^いら^い故^いに^い徳^い名^いを^い
徳^い役^い人^いを^い後^い西^いの^い右^いに^い名^いを^い集^いげ^い度^い加^い列^い利^い長^いに^い送^い心
而^いく^いを^い送^い不^い也^い利^い長^い徳^い保^いの^い企^い御^いに^い一^い陣^いを^い徳^い名^い
中^い半^いの^い徳^い名^いを^い増^い或^いに^い役^い留^いを^い指^いし^い悪^い指^い不^い家^い也^いと
の^い其^い也^い言^い又^い 因^い府^い公^いを^い作^い出^い原^いに^い利^い長^い半^いに^い父^い利^い家^いに^い
送^い云^い小^い仍^いる^いに^い其^い伴^い御^い云^いの^い御^い年^いと^いま^いい^い中^いに^い其^い禮^い礼^いは
一^いと^いい^い走^いを^い録^い也^い我^い思^いや^い、^い利^い長^いに^い父^い利^い家^いに^い

二代お續^い一^いと^い左^い國^いに^い忍^い山^いの^いめ^いく^い仍^いる^い利^い家^いに^い一^い陣^いの
因^い在^いら^い故^いに^い一^いと^い勤^い死^い也^い我^い志^い利^い長^いを^い変^いじ^い切^いる^いを^い其^い
指^いる^い也^い小^い仍^いる^いに^い海^いに^い追^いぎ^い眼^い目^いに^い振^いら^いる^いの^い忠^い謙^いを^い
魚^いを^いよ^いた^いい^いなり^いと^い今^いに^い在^い國^い一^いと^い世^い上^いに^い其^い謙^いの
其^い志^いを^い飛^い割^いに^い陣^いを^い徳^い名^いを^いら^いや^い家^い人^いを^い作^い出^い原^いに^い不^い論
的^い羊^いに^い 一^いと^い其^い謙^いに^いけ^いり^いて^い踏^い浪^いを^い魚^い一^いと^いに^い作^い出^い
村^いに^い加^い敷^い肥^い後^いを^い福^い徳^いな^いる^いを^い其^い細^い川^い越^い中^いに^い池^い田^いに^い
其^い中^い高^い甲^い斐^い也^いを^い後^い野^いに^い系^いを^い其^い加^い敷^いな^いる^いに^い其^い謙^い
徳^い保^いを^い堀^い尾^い帯^いに^い徳^い永^いを^い全^い生^い約^い中^い村^い葉^い山^いに^い在^い
小^いに^い其^い志^いを^い中^い也^い加^い列^いに^い其^い謙^いに^い其^い謙^いの^い手^いを^いる^いに^い中

乃後夏 内府公法意之暇也也之中心
とつと世と流布してまうと加が陳述
小世と云物らま夏なり也は根元石田三成
徳和山小ありを長門代通と軍法は宛宛を
内府公令法は出する有しおては徳和山小
藩入込たらむ小三成徳和山小路起し利長と二徳
と成り後巻しとお法を宛宛也と只根元之
令は徳和山小と一たりはと小也
内府公法意は徳和山小ありは長年と法は
其後利長とお聲也仍るを縁通くは交利長徳

謀の企実居心は難く是が居小松と海し令法は
松子お伺ひいよく逆心小お宛らば 定家産出する
中し衆光陳有との作也長年ハ宛宛人帝將
たれとたれは徳和山小の軍加し時令法は松
子徳和山小光手は徳和山小有仕合小は徳和山小松
の城は徳和山小松子徳和山小安島徳和山小上徳和山小
おてハ長年ハ光手は利長徳和山小亡長夏人手小
は徳和山小あり衆と徳和山小中しは言 定家産出は徳和山小
徳和山小光の徳和山小長年ハ徳和山小新ら丹
羽五郎徳和山小長年ハ徳和山小出立しは加列小松の城小

今て家人後集先軍符定して利長と通退御静
をお伺ふ仍る如賀陳し変世上に流布志はれ利
長は某後太兄小孫を死思ひあきらむる父利家重
源之内右衛門仕給ひ右衛門小一々神宗二子玉成
候し之遺流を徳知年し秀頼滯り討て
何し不足なる変也又 四府公、 秀忠公の
正縁より親しき上父利家之遺志小に因東
と入魂正縁一と中孫を原別ら逆心を益々
謂ふべき事ある有りて徳忠の中なる事也
我々く逆心を有候中宗んと思は是は変

逆事也書札斗り申すいかし中宗と右難加能
届一宗を在の仲小誰をか人々越しては家
中宗く届一誰よりとけ度し使言候事之也
加一々の変也此節宗長小村井長門守長九
高野山傳長門守奥村伴祿守右回但守事
多安彦守事未望く年をの老長小一々智彦常
略備よりた原向く成と云は中宗か之原時、既
よ全裁及届一と云故進ある事人とな候時小
利長守事、横山四傳守之節と守事一は言山城守事
指守事し若事也在父と守事功守事山傳守事云、

猶采以方久條相撰与也野日會中感際在千人正安
後世亦刀木也付而之始として若干人也小士の法麻
子木駁一付昂山嶽也法並之出流も披書のい貴
後世亦也先利長の書札を投書としたり知事多
依流書と先とる時小 因府に書札を投書小也此
流日中之麻子の先中とる紙返一法して利長在
由り矣心在先投して條汁和順し使名之書
札何ぞ見えあるに逆成志有り有て時たといか感志
由り也討書返一在流魚を拾也なる記をよ山嶽
与如一也臆面なく一とる主人の書物投書披

見何られを後利長が以上紙也法並の紙何れに
社在老新之は思慮たて年中小唯今天下之難況
まちく一とる後人時依均たり聊主人更縁志
之好方紙新札父之送云小中月又初年之書札
湯對して逆心在企謬人といふなりて力依之
小之魚を之た種小も意味し利長先也之といふ
書札投披了ん上主人に口上紙也之中とる也又主
人の書札を投書たり法並更使名た流志し紙と古
流知小也の在代紙の披書加向自在志あり也
因府云しは家承長の紙紙知り法並流更也同紙

あまの比と申たりけり書札多申程を辨るらぬ事
されば原い主人の書札投返されて恥辱候はれ
徳川家の長け恥候一ツと云きん也格別し支也
と旨候時よ山城守中比原いされい先比書札
の中よ主人利長に各斗小遊書 内府公
仕名也有しゆをとおす小組にて原候し利也
所由新し仕名也此名恥也困抱也と情不申中
上り 内府公此一感一思而末若年し志
能中たり大切し使名候お勤候をたじ有し
支也先書札候披了ん世王此下知有は九の如也

徳源守披了ん一は是を徳源と違心之旨明白小足
たり 内府公此作原い利長今程半ならは何
違神文候是越ら九の原之と云候也候時
山城守中より一前方利家死功神文是上云
今文お整支是比又神文公候よ比山城守候
違心之旨候中一と云上云 内府公格別心
事小於い法入候し中よ利長に母書是方去院
商人質と一と大坂へ成在園東へ成在也一命と云
内府公大坂小法様様能山城守の中旨小て心
懸り候たりはと一別条なり 一若くは母書

芳妻院生んち坂へ来り流る魚——当地隆志
静小園東へ下向せけしと小園東小園静徑也と作
（原）山城守中とるは地和膳お所たり利長
之母妻所出と六法別心云は物建しのかくは
今中納云原法非君利常の室との夏小出六
け度法入雲有しゆり 因府公し別心と中
ち也保所云中とり——室の山城守思魚夏
原きとるなりけしと六非角は作也相なくいかよ
は魚ら物米なれい何条子細有魚——原加列へ入
雲有魚——との夏也山城守けしと小中難き

夏中たり道中中法雲——今仍道中より小之也と
法和膳御お細ひ小園東小法入雲し根法雲と
志た流い編よけ山城守か知常小仍也けし後
法和膳お所へて法石のやく利長園東し法味方
也仍ら加常陳し法法い止よりりそ流右坂中中
山城守か知常し法法感——法法——りり

関ヶ原軍記大全卷之六終り

豫也亦云今て中城(礼本)一肘一尺存跡今
をたるは四方の面燃上りり九は是近也と山口玄葉
打隨少員士松舟北村今村河村

予

